

太田哲也×ホリデーオート

ENJOY & SAFETY

ドライビング スクール

Supported by 出光

太田哲也講義

▲ドライビングの基本から実践テクニクまで1時間に達って講義。車両の荷重移動やライン取りの重要性、タイヤの使い方などを学ぶ



クルマが日本を元気にする

supported by 出光

Tetsuya Ota
ENJOY&SAFETY DRIVING LESSON



慣熟走行・まずはサーキットに慣れてからライン取りを学ぶ



本誌コラムでおなじみの太田哲也氏とコラボレーションして、2回目のドライビングスクールが開催された。震災からの復興を願う太田氏が、このドラスクにかける思いとは…。

■文：加藤英昭（本誌）■写真：井上雅行

2011.6.25 at 袖ヶ浦フォレスト・レースウェイ

ドラスク開催の意義

出光とコラボして ドラスクを開催！

3月11日の大地震の影響で、太田哲也ドライビングスクールは当初予定した開催を延期していた。地震直後にはガソリン不足も懸念されて、「クルマなんて必要ない！」というような雰囲気すら流れていたからだ。

しかし、太田はその考えに真っ向から「NO」を訴え続けてきた。クルマは東北の復興を支える「足」であるだけでなく、夢を与えてくれるパートナーである。そしてむしろ「クルマで日本を元気にしていこうじゃないか」と、様々なメディアを通じて語りかけてきた。

そして震災から2カ月が経った頃から、太田は世の中の空気の流れが変わり始めてきたのを感じていた。そこで、「こういう時期だからこそ、閉塞感を打開していくためにもドライビングスクールを開催しよう」と決意。クルマに乗って出かけた後、自らがクルマを使ったイベントを企画していくことで、震災で沈滞ムードが漂う日本を盛り上げていこうと考えたのだ。

太田のこうした考えに賛同した出光興産とホリデーオートとの3者がコラボレーションして、今回のドライビングスクール開

メカニック講座



▲サーキットを初めて走る人のために、走行前には車両のメンテナンスやチェックしておきたい箇所を教える「メカニック講座」が行われた

ごあいさつ



▲出光興産の河合氏と田嶋氏は、「太田哲也さんのチャレンジ精神、安全思想に賛同して、これからも様々な活動を支援していきたいです」とコメント

フリー走行



▲慣熟走行の後には、サーキット走行経験に合わせ2グループに分けて、20分×2本のフリー走行を実施。サーキット初心者も、講義の内容を思い出しながら走ることにより、納得しながら走っている人が多く、全車事故もなく無事に走り終えることができた

伊藤真一特別講義

被災地の人に少しでも 勇気を持ってもらいたい

仙台在住のライダー伊藤真一氏が特別講師として参加。「被災地の復興はまだです。ですが真っ心に落ち込んでいても仕方ない。自分のできることをやろうと思いました。そこで7月の鈴鹿8耐に参加します。それが被災地の人に少しでも勇気を与えることになればと思っています。また時間があれば、他の地域の方は被災地を見に来てほしい。まったく違って見えるはずですから…」伊藤氏は現在でも復興のために走り回る毎日とか。

僅にこぎ着けることができた。少しでもクルマを運転する楽しさを知ってもらいたい。サーキットを走ることでより安全を意識してもらいたい、という太田のメッセージを多くの人に届けられればという想いがここに結実したわけだ。

ちなみに出光興産はドライビングスクールへの支援のほかに、太田の様々な活動を支援してきた。例えば将軍の社会を担う子供たちに、チャレンジし続けることの大切さや、交通安全に対する意識を高めるための小学校出張授業（講演）のサポートを行ったりしている。

太田は以前から「走りを楽しむには安全になる」という考えを提唱してきた。運転がうまくなつてスムーズに走れるようになれば、「走りを楽しむ」が実現する。それが安全に直結していくという考えだ。そのためにはサーキットでクルマの挙動の限界と、自分の運転操作の限界を知ることが必要となる。それが理解できるようになれば、公道走行での安全に大きく役立つ。

走りを極めていけば 安全になる。を実践

しかし、サーキットで走るといふことは、初心者にとっては高いハードルであることは間違いない。そこでそのハードルを

クルマで 日本を 元気に するゾ!!

少しでも低くしようと、このドラスクはリーズナブルな参加費に設定したり、アットホームな雰囲気作りに努めている。太田の講義はドライビングの基本を学ぶことからスタートする。車両の荷重移動やタイヤの

使い方の大切さを知らないまま走り始めても、上達はままならない。理論をきっちり学んでから走ることで、慣熟走行やフリー走行での理解度が深まる。充実のレッスン内容はこの後でじっくり紹介していこう。

記念撮影



普段は乗れないスポーツカーの 助手席でドラテクを盗め!



GT-R×太田哲也の 走りはどうだった?

岡田高徳さん

「太田さんの運転のアルファ159の経験はありますが、GT-Rは違いますね。これが本物! ケタが違いすぎて勉強になりました」



村上剛久さん

「すごい加速なのは当然だけど、重厚感があります。安定していた。どっしりしている。クルマのポテンシャルの高さを感じました」



丸山健さん

「友人のGT-Rを借りたことありましたが、ここまでできません。プロドライバーは化け物だと。操る技が違いますね。驚きました」



ランエボX×伊藤真一の 走りはどうだった?

寺田由紀久さん

「信じられないスピードでした。あれでよく曲がるなあ。と。自分とはレベルがぜんぜん違いますね。貴重な体験ができたと思います」



若田寛さん

「講習で言われたことが、ちょっと理解できました。ただ、あのスピードでコーナーに飛び込む勇気はなかなかないでしょうね」



熊本貞美さん

「サーキット走行の経験があるのですが、自分のイメージとプロの走りがあまりにかけ離れていました。ドライバーがすごかった」



イベントレポート

サーキット走行初心者が
約3分の1も参加!

6月25日の袖ヶ浦フォレスト・レースウェイは、幸いにして梅雨の中休みの強い日射しが朝から注いでいた。まさに絶好のイベント日和だ。受付開始の8時45分を待ちきれないかのように

に、早朝から続々と参加者がサーキットに集まる。そしてドライビングスクールは、太田氏の「モータースポーツの世界へようこそ」という挨拶から始まった。このイベントは「スクール」と名前にあるように、ただ走るのではなく、「ドライビング」を学ぶのが主目的となる。その

ため午前中にじっくり2時間をかけて講義を行う。モータースポーツへの安全なアプローチ方法や実践的なドライビング方法が太田氏から直接レクチャーされるのだ。そうしたことから今回41人の参加者の約3分の1がサーキット走行の初心者。逆に言えば初心者の窓口という意味あいの強いイベントなのだ。

「ドライビング・スタイルには2つのアプローチがあります。感覚派と理論派です。ですが、みなさんのようにこれからモータースポーツを始めようという方は、理論派しか選べません」と太田氏。

何が言いたいのかというと、理論もなく「習うより慣れろ」という古いアプローチでは、リスクばかりが大きくなる。それを太田氏は強く戒めているのだ。

「速くなる前にうまくなれ。慣れる前に習え。そして考えろ」ということ。そうすることで安全にモータースポーツを楽しむことができる。太田氏のメッセージは、非常に説得力があるものであった。

そしてドライビングの基礎として説明されたのが、タイヤの摩擦円と荷重移動の話だ。タイヤのグリップ力は、最大値があり、それを前後方向と左右方向で分かち合いながら使うという

クルマが日本を元気にする

supported by 日産
Tetsuya Ota
ENJOY&SAFETY DRIVING LESSON

リーフ体験試乗会

電気自動車の独特の走行感覚に一同感動!



藤田 健史さん
「普段乗っているプリウスやティータよりもスムーズで加速が早いんですね。静かですし、予想以上に気持ちいい走りでした」



中出 太郎さん
「音がしないことに違和感がありますね。静かさがずば抜けている。街中では快適でしょうね。ただ静かすぎて危険はないのかな?」



星野 正人さん
「最後まで興奮なのはビックリ。重さからくるのが乗り心地がいいですね。衝撃感があって、コンパクトカーの雰囲気じゃないね」



朝崎 孝正さん
「もっと軽くて安っぽいイメージだったけど、しっかりしていたね。ただ、味わいが足りないと思う。よくも悪くも普通のクルマかな」



◀ドライビングスクールが行われた千葉県の手賀原の袖ヶ浦フォレスト・レースウェイには40名の参加者が集結。参加車両は国産車と輸入車が半々ぐらいの割合



▲受付後とフリー走行の合間に、日産の電気自動車「リーフ」の体験試乗会を実施。実際に運転してみると、EV独特の走行感覚にビックリしながらも感動する人が多かった



▲最後は恒例のじゃんけん大会。出光興産のキャッシュリカや日産GT-Rのミニカーなどのおみやげをプレゼント



▲太田哲也氏も参加した、東日本大震災復興チャリティソング「RESTART JAPAN with TUBE」をみんなで熱唱!

ノンビリした雰囲気に参加しやすいという声
午後は愛車を駆つてのサーキット走行だ。まずは太田氏などの運転するクルマに導かれての完全走行。15分ほどゆっくり走

るのが摩擦円。そして、クルマの姿勢によって前後のタイヤにかかる車重(荷重)は変化して、その変化に応じてタイヤのグリップ力が変化するというもの。そしてこの2つの基礎を踏み台としたコーナリング方法(旋回ブレーキ)やライン取りの方法がレクチャーされた。また、最後には特別ゲストとして参加した伊藤真一氏によるバイクとクルマのドライビングの違いをテーマとした講義が行われた。

「このイベントは、タイム命ではないところがいいですね」
「初めて参加した時、みなさん

りながら、このコースの走行ラインを学ぶ。そして2つのグループに別れて20分ずつ2回のフリー走行へ。午前中に聞いた理論を使い、教わったラインを攻めてゆく。
空き時間には、太田氏と伊藤真一氏が運転する日産GT-Rと三菱ランサーエボリューションXへの同乗走行を実施。自らが走った同じコースをプロドライバーの走りで見学できたことで、クルマから降りてきた参加者はみな興奮さみだ。

「このイベントは、タイム命ではないところがいいですね」
「初めて参加した時、みなさん

親切にしてくれました。なので、今度は初心者の方にお返ししようと思っているんですよ」
「このイベントは怖い人がいない(笑)」
そして無事に誰も事故なく走行終了。修了式へと移る。
「今日は言われた通りに走れなかったかもしれない。でも、それでいいんです。答えが先にあつて、それを目標して考えてゆく。根性ではなく、考えて上達する人にはスランプがありません。そして、これを機に公道での模範ドライバーになってほしい。飛ばすのはサーキットです。街ではもう飛ばす必要はないでしょ。これが安全につながります」という太田氏の言葉でドラスクは修了した。

Circuit

ドラテクを磨くのにサイコー! 袖ヶ浦フォレスト・レースウェイ



都心から近いJAF公認サーキットとして人気の高い「袖ヶ浦フォレスト・レースウェイ(2436m)」がドラスクの舞台。コースはアップダウンがあり、Rの異なるコーナーが連なるテクニカルコースでドライビングのスキルアップには最適だ。このサーキットではライセンス会員を募集中で、取得すればスポーツ走行が可能となる。

● 袖ヶ浦フォレスト・レースウェイ
千葉県袖ヶ浦市林348-1 ☎0438-60-5270
<http://www.sodegaura-forest-raceway.com/>